

共同研究「非地震性津波」等に関する報告会を行いました（2022/7/7）

テーマ：非地震性津波、2009年駿河湾津波、2018年スラウェシ島津波、2022年トンガ津波
場所：パシフィックコンサルタンツ株式会社 本社、オンライン

2022年7月7日（木）に、「非地震性津波」および連携事業をテーマとした講演会がパシフィックコンサルタンツ株式会社本社及びオンラインで開催され、合計170人が参加しました。

パシフィックコンサルタンツ株式会社とは、東日本大震災の前から津波工学の観点で津波工学研究分野との連携があり、近年の非地震性津波の発生を受けて、数値モデル等の開発を共同研究の中で実施しています。また、2015年の国連防災世界会議の開催の準備において本社から当研究所への出向者を受けたのを始めとし、現在の出向者は5人目になっています。

この度、関係者が一同に集まり、成果報告会が開催されました。まず、非地震性津波に関する研究は世界でも日本国内でも既往研究および対象データが少ないため、正確な非地震性津波に関する発生メカニズムやハザード評価等が課題になっています。2018年にインドネシアで発生したスラウェシ島津波をきっかけに、現在まで当研究所の津波工学研究分野とパシフィックコンサルタンツ株式会社が共同研究を実施し、共著者で複数の学術論文に投稿・発表しています。

報告会では以下の通り、4つの報告がありました。

- 1) 津波災害および対策の最近の動向—非地震性津波の活発化
(今村文彦所長)
- 2) 非地震性津波モデリングの開発：海外津波に適用した事例
(サッパシー・アナワット准教授（津波工学研究分野）)
- 3) 三次元斜面安定解析を用いた2009年駿河湾地震における海底地滑り津波に関する研究
(パシフィックコンサルタンツ株式会社 東北支社 東北国土基盤事業部港湾室 永澤豪氏)
- 4) 2030 国際防災アジェンダ推進オフィスへの出向報告
(2030 国際防災アジェンダ推進オフィス/パシフィックコンサルタンツ株式会社 坂本壮氏
(国土基盤事業本部より出向))

最近では、今年1月にトンガでの大規模火山噴火によって発生した津波に関する研究も始めているので、これからも引き続き非地震性津波に関する共同研究に幅広く取り組んでいきます。

文責：今村文彦、サッパシー アナワット（津波工学研究分野）
(次頁へつづく)



今村所長による報告



サッパシー准教授
による報告



永澤豪氏による報告

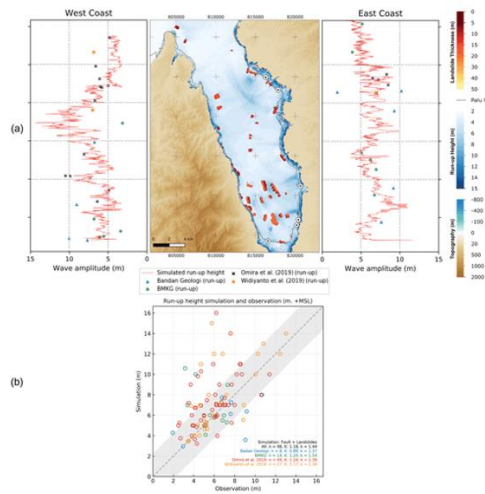
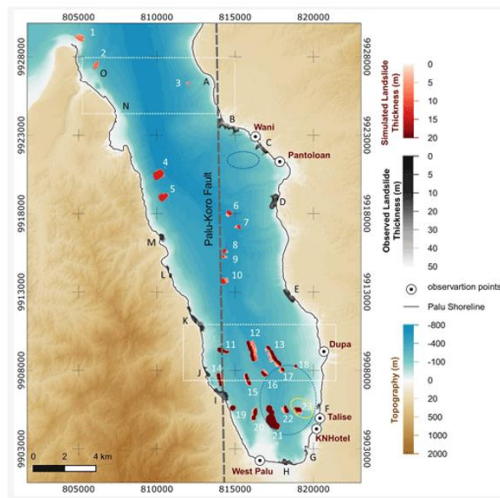


坂本壮氏による報告



対面参加者の集合写真

2018年スラウェシ島津波

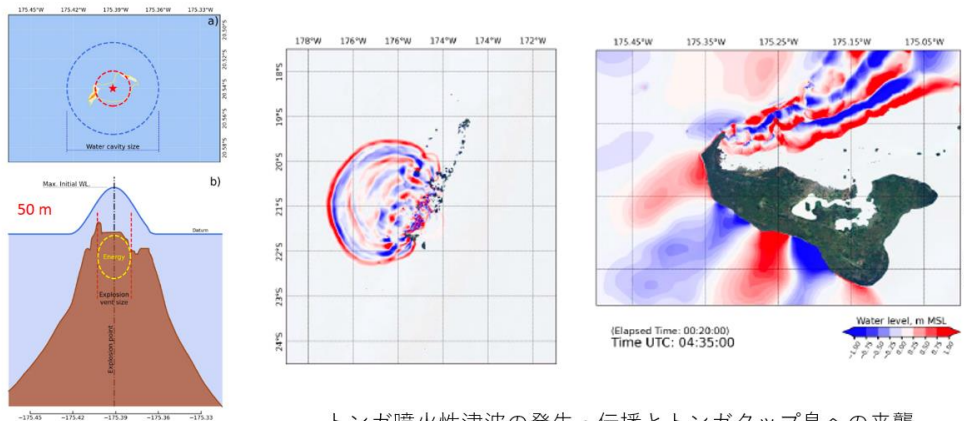


三次元斜面安定解析による海底地すべりの再現計算

海底地すりによる津波の再現計算

Somphong, C., Suppasri, A., Pakoksung, K., Nagasawa, T., Narita, Y., Tawatari, R., Iwai, S., Mabuchi, Y., Fujita, S., Moriguchi, S., Terada, K., Athanasius, C. and Imamura, F. (2022) Submarine landslide source modeling using the 3D slope stability analysis method for the 2018 Palu-Sulawesi tsunami, *Natural Hazards and Earth System Sciences*, 22, 891-907.

2022年トンガ津波



トンガ噴火性津波の発生・伝播とトンガタップ島への来襲

トンガ噴火性津波の初期設定